

琉球大学学術リポジトリ

アジア太平洋域における大学院学生の国際連携教育 プログラム－ダブルディグリープログラムなどの推 進－最終報告書

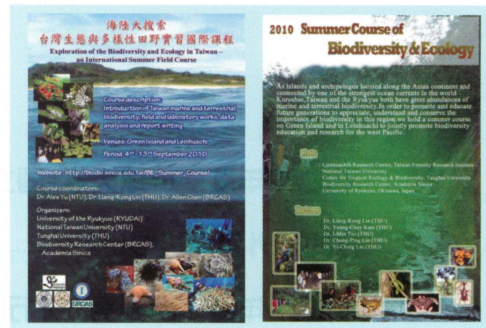
メタデータ	言語: Japanese 出版者: 琉球大学大学院理工学研究科 公開日: 2013-09-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 岩政, 輝男, 土屋, 誠, 日高, 道雄, 田中, 淳一, 中村, 崇, 高江洲, 哉子, 広瀬, 裕一, 成瀬, 貫, 傳田, 哲郎, 須田, 彰一郎, 新城, 竜一 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/27434

平成22年度

琉球大学-國立台灣大學-東海大學 合同野外実習について

広瀬 裕一(理学部海洋自然科学科)

琉球大学と國立台灣大學(台北)、東海大學(台中)が合同で野外実習を実施しました。本学の博士前期課程海洋自然科学専攻(生物系)の5名(留学生1名を含む)、アシスタント2名(博士後期課程の学生と博士研究員各一名)が、同専攻教員6名とともに台湾へ渡り、10日間の野外実習を台湾の学生・教員と一緒に行いました。日程は以下の通りです。



9月4日	沖縄-台北	中央研究院でガイダンス
9月5日	台北-台東	台湾東岸をバスで移動
9月6日	台東-緑島	フィールド巡検と講義
9月7日	緑島	ベントス群集のトランセクト調査
9月8日	緑島	データ解析と討議
9月9日	緑島-台東-台中	鉄道で移動
9月10日	台東-蓮華池	バスで研究施設へ移動、講義と野外調査 (ピットフォールトラップ、高感度ビデオカメラ撮影)
9月11日	蓮華池	講義と野外調査(昆虫相の調査)
9月12日	蓮華池-台中	データ解析と討議
9月13日	台中-台北-沖縄	高速バスで空港へ

海域の実習を台湾の東に位置する緑島で行いました。この実習には中央研究院生物多様性研究中心の研究者が協力し、中央研究の施設を利用して実施されました。



▲トランセクト調査



▲データ解析と討議



▲採集試料の整理

陸域の実習は、台湾のほぼ中央に位置する蓮花池の研究施設を利用して行われました。



▲ピットフォールトラップの回収



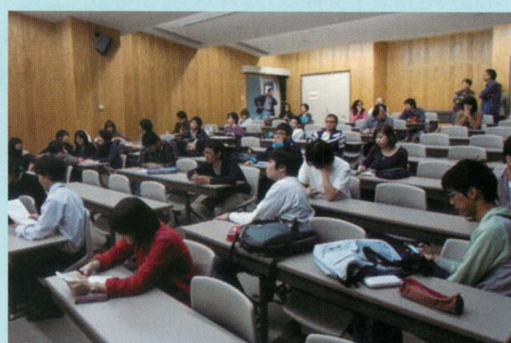
▲スウィーピングによる昆虫相調査



▲高感度ビデオカメラによるクモの観察

本実習では原則として英語が用いられ、ときおり漢字による筆談も交えながら進められました。台湾の自然の中で生物多様性について学ぶとともに、琉球大学と台湾の学生・研究者が交流を深めることができた実り多い実習となりました。

11月26日には本学の理系複合棟で本実習に参加した学生による公開報告会を開催しました。



平成23年度

西表島にて行った琉球大学-国立台湾大学-東海大学(台湾)の
合同野外実習について

成瀬 貫(琉球大学熱帯生物圏研究センター西表研究施設)

平成23年7月8日から14日までの7日間、西表島において、琉球大学主催、台湾大学(台北)、東海大学(台中)と台湾中央研究院の協力のもと、国際合同生物学野外実習を実施したので報告する。琉球大学熱帯生物圏研究センター西表研究施設を利用して行った本実習は、西表島の自然と生物多様性をテーマとしており、上記4機関から生物学を学ぶ学部生・大学院生17名に加え、今回ゲスト参加したボゴール農業大学の学生2名、さらに各機関の教員やスタッフ等24名の、計43名が参加した、国際色豊かな実習となった。

本実習では、サンゴ礁から山地まで様々な環境が小さな範囲に凝縮されている西表島の特徴を活かし、サンゴ群集および個体群研究の概説と入門的調査実践から、マングローブや山地の植生の観察、干潟における甲殻類相の調査や、自動撮影装置を用いたイリオモテヤマネコなどの陸生生物の観察方法の実践、小型鯨類の骨格試料を用いた骨格標本の構成など、多岐にわたる内容に取り組んだ。

本実習中の講義や解説、指導はすべて英語で行われたが、参加者は英語だけではなく、日本語、中国語、インドネシア語などを交えつつ実習の共同作業や課題への取り組み、さらには自由時間の活動を通して、非常に濃密な国際交流を行う事ができた。ここで得られた体験は、参加者が将来国際交流を進める上での大きな自信になるはずであり、また琉球大学としてもこのような機会を設けることで、これまで以上の国際交流が活発になることが期待できる。

この国際合同実習は台湾と琉球列島で交互に実施しており、第1回の昨年の実習は台湾で開催され、さらに来年度は再び台湾での実施が計画されている。

■国際合同生物学野外実習の概要

今回の国際合同実習は、琉球列島という生物学的見地から、国際的にも価値の高い立地条件を利用して、国際的な視野で研究を推進できる学生を育成しつつ、今後ますます多様化する環境問題や将来の国際共同研究を進める上で重要な国際的なネットワークの構築を推進するために、平成22年度より開始されたプログラムである。特に台湾と琉球は隣接する島嶼であるが、地形や面積が大きく異なることから、そこに見られる生物の生態や生物多様性には様々な共通点と相違点がある。そのため、両方のフィールドを体験することで得られる教育・研究上の意義は大きい。

琉球大学はアジア・太平洋地域における研究拠点形成を進めており、アジア諸国の大学と協力して国際サマープログラムを開催することで、学生のみならず教員の国際性を高め、異なる文化・環境での経験と知が集積されることを目指している。

1) 期間:平成23年7月8日～14日

2) 実習の実施体制:今回は前回の台湾で行った実習に続く第2回目の実施であり、琉球大学大学院理工学研究科海洋自然科学専攻・海洋環境学専攻(生物系)がホストとなり、台湾大学生命科学院、東海大学生命科学系、中央研究院生物多様性研究中心から、計43人の実習生や教員、ティーチングアシスタント(TA)が参加した。またゲスト参加として、ボゴール農業大学水産海洋科学部海洋科学技術学科からも参加者があった。参加者の内訳は以下の通りである。

琉球大学	学生6人	教員11人	TA2人
国立台湾大学(台北)	学生8人	教員3人	TA1人
東海大学(台中)	学生3人	教員2人	TA1人
中央研究院(台北)		教員2人	TA1人
ボゴール農業大学	学生2人	教員1人	

3) 実施場所: 西表島上原にある琉球大学熱帯生物圏研究センター西表研究施設をベースに、島内の様々なフィールドを利用して生態と生物多様性をテーマとする実習を行った。

4) 実習内容: 以下のような内容の実習を行った。

- ・マングローブの植生(講義・実習)(馬場繁幸教授1・渡辺信准教授1)
- ・海洋生物の多様性(講義)(ジェームス・ライマー准教授2)
- ・サンゴの生物学(講義)(中村崇専任講師3)
- ・サンゴ群集および個体群研究の概説と入門的調査実践(講義・実習)(酒井一彦教授4)
- ・鯨類の骨格の構成(講義・実習)(伊澤雅子教授3・戸田守准教授4)
- ・自動撮影装置を用いた野生生物の調査(講義・実習)(伊澤雅子教授3)
- ・西表島の山地の植生(講義・実習)(横田昌嗣教授3・傳田哲郎准教授3)
- ・船浦湾における十脚甲殻類相の調査(講義・実習)(成瀬貴助教4)
- ・研究成果発表

1. 琉球大学熱帯生物圏研究センター・農学研究科
2. 琉球大学亜熱帯島嶼科学超域研究推進機構・理工学研究科
3. 琉球大学理工学研究科
4. 琉球大学熱帯生物圏研究センター・理工学研究科



▲スノーケリングによる、サンゴ群集および個体群の調査(提供: Yusli Wardiatno)



▲マングローブの植生の解説(提供: 成瀬貴)



▲実習で訪れたカンピレーの滝(提供: 横田昌嗣)



▲小型鯨類、オガワコマツコウの試料を用いた、骨格の構成を学ぶ実習(提供: 成瀬貴)



▲型鯨類、オガワコマツコウの試料を用いた、骨格の構成を学ぶ実習(提供: 成瀬貴)



▲西表研究施設での講義(提供: 小林峻)



▲船浦湾における干潟の甲殻類相の調査(提供: 成瀬貴)



▲熱帯生物圏研究センター西表研究施設付近における野外観察(提供: 傳田哲郎)